

第1回

「教えて サステナブル先生！」

報告書

2021年3月7日

一般社団法人SWITCH



第一回 教えて サステナブル先生！

実施報告

開催日時	3月7日(日)18:00~20:00JST	サステナブル先生	伊藤武志先生(大阪大学SSI教授)
開催形態	オンライン開催	司会進行	佐座榎苗 鳥井要佑
言語	日本語	タイムテーブル	1 SWiTCH紹介 2 参加者自己紹介 3 伊藤先生紹介 4 質問タイム 5 まとめ 6 感想タイム
参加年齢	10代-60代		
参加者合計	27名		
集客方法	SNS(twitter Instagram) メール 口コミ(知り合い)		

■ 概要：

月一回、サステナブルの専門家が参加者の質問に直接回答。オンライン質問投稿ツールをいかした双方向のコミュニケーションが特徴。

■ 開催の目的：

「教えてサステナブル先生！」では、さまざまな分野の専門家を招き、参加者からのサステナブルについての質問に回答いただく。サステナブルについての視野を広げることを目的とし、参加者が今後の生活や仕事上でサステナブルを取り入れるきっかけを作る。

■ 成果：

サステナブルについて、参加者がどのようなことを疑問に思っていることが明らかになった。知識を得ると同時に、日頃からサステナブルの実現について考えることの重要性を共有した。

■ 今後の課題：

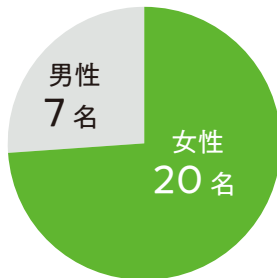
集客について：目標・30~50人 次回企業からもっと来て欲しい メンバーシップ会員の増強

運営について：インタラクティブ 対話型は良かった

内容について：質問の設定方法（テーマを設定した方が良いかも）

参加登録者データ

[ジェンダー]



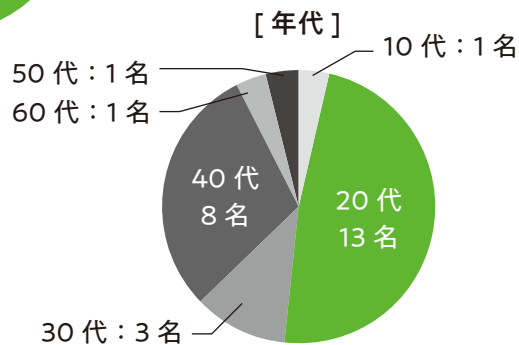
[職種]

大学生：4
 会社員：10
 フリーランス：3
 自営業：3
 公務員：2
 アルバイト：1
 無職：1
 その他：3

[業界]

政策コンサル
 アパレル
 研究員
 ESG 投資家
 キャリアコンサルタント
 広報
 経済産業省
 サステナブルデザイン
 芸術文化管理
 ファッションパタンナー
 農学部獣医学専修
 建築環境デザイン
 市役所国際局
 教育
 視覚伝達デザイン
 経理
 グラフィックデザイナー
 デザインディレクター

[年代]



参加者コメント

- これからの活動も心より応援しております。
- 仕事でどのように還元できるか考えるよいきっかけとなりました。経済なども自身で知識を吸収していこうと思います。ありがとうございました。
- チャットな pigeonhole でお互いの意見を入れるので見れるのでとても楽しかったです。
- 伊藤先生の経営学者ならではの視点が新鮮でした。他の参加者の質問や反応を聴けるのも参考になりました。今後も学び続けたいと思います。



参加者からの質問とサステナブル先生のコメント

Q1 気候変動はサステナブルな社会にどうつながっていますか？

[伊藤先生のコメント]

このまま温暖化ガスが増加し、温暖化が進むと地球上の氷河が溶け、海面上昇を招きます。海外の島国だけでなく、東京でも沈んでしまう土地があるでしょう。これではサステナブルではありませんね。

[参加者の意見]

- ・生きることと同じで地球のコンディションを考えるという上では持続可能性に繋がると思います。

Q2 SDGsウォッシュも増えてきている中で、各企業などが本当にSDGsに貢献しようとしているか、どのようにして判断できるのでしょうか？

[伊藤先生のコメント]

- ・理念が現場に浸透している会社。(現場社員に接して検証すると、本気かどうかわかります。)
 - ・自社に不利なことでもきちんと公表する会社
 - ・自分の業界を構造的によくしようとする行動をとっている会社、業界全体のサプライチェーンをよくしようとしている会社
- SDGs への本質的な貢献を目指している企業なんて全体の 5%くらいだと思います。「みんなやってるし」「国連が言ってるし」であってもでもやらないよりマシです。

[参加者の意見]

- ・マイナスをゼロにする（サプライチェーンにおける児童労働をなくす）と、プラスを増やす（植林する）の2種類があると思っていて、いまはプラスの話がほとんどで、マイナスをゼロにという活動が少ないと思っています。
- ・事業だけでなく社員のための休暇や働き方の配慮まで手が伸びていると信頼できそうです。
- ・CSR の報告書をいかに上手に作るかを、財務の人ががんばっているようですが、企業の文化として浸透しているかを見分けるか、知りたいですね。その会社に足を運んでみようかな。
- ・自分の日常の当たり前が、どこかで誰かの悪影響になっている可能性があることに気づけないのが問題かなと思います。
- ・サステナブルの部署で働く知り合いは、サステナブルの予算を「SDGs やってますアピール」の広告費につかっているとっていました。
- ・「オーガニック」も日本と海外の基準は違うのですが、まずは認定機関のことが色々な意味でもっと広まればと思います。
- ・透明性を Term0（完成した商品）から Term4（原材料の生産）までさかのぼったら、Term4 は自力で透明にできませんでした。Term4 からわかるような業界の体制をつくりたいですね。

参加者からの質問とサステナブル先生のコメント

Q3 サステナブルな未来にするために、早急にやらないといけないことはなんですか？全て大事だと思うのですが、優先順位が知りたいです。

[伊藤先生のコメント]

皆さんのご意見のとおり、すべきことはたくさんあります。

エネルギー問題で言えば、目の前の経済活動が現状変更の障害になっています。今すべきことは、「将来こうしたい」ビジョンを設定し、人々の共感いただくことだと思います。

賢い消費者と言う意見があります。エシカル消費については、環境問題だけでなく労働の問題も大きなウェイトを占めています。国家としては賃金の安い業界への介入、消費者としてはブラック企業の製品を買わないことで健全なインフレに持っていくことが必要です。そうすることで賃金が上がり、生活に余裕が生まれ、エシカルな商品をより買いやすくなるでしょう。働くことに正当な対価をつけて社会ごとよくしていくことが求められています。

[参加者の意見]

- ・火力発電の停止！
- ・使い捨て型の消費と人の意識を変えることだと思います。
- ・大量生産をやめていくこと？
- ・マイボトルを使ったり。エコバッグ使ったり。個人レベルでもできることが山ほどありそう！
- ・様々な分野、国の協力体制を作ることでしょうか。
- ・モノの循環を進める・エネルギー需給のグランドデザイン
- ・環境問題の現状を知る、知らせる・サステナブルな社会になるように、市民のリテラシーを向上するべく、教育！
- ・環境へ悪影響にならない使う素材を作る？ほぼ、使う素材がプラスチックが多くなって。
- ・賢い消費者になろうとすること。
- ・資本主義の方向転換・無理なく始められることを着実にいき、その積み重ねからやる幅を広げる
- ・業界の壁を越えて、社会全体でつながり合うことはインパクトがありそう
- ・60代を越えた人が、大切なことをほとんど決めている印象があるので、若者の意見を社会のシステムに反映できるようになった方がいいな・エシカル消費 高い 買えない問題にわとりたまご問題余裕を作ることの重要性

Q4 若者が今一番しないといけないサステナブル活動はなんですか？

[伊藤先生のコメント]

日常的な経済活動の中で環境・従業員・社会にいい会社を選ぶことが必要です。そうすることで、より環境と社会に配慮した社会が構築されていくでしょう。各業界の作り手と買い手が善意であり、製造、販売、購買行動の中でも善意でなければならない。若者がリーダーシップをとり、そうした社会を実現していきましょう。

参加者からの質問とサステナブル先生のコメント

Q5 日本はサステナブルな取り組みが遅れていると思います。 このままでエネルギーは賄えるのでしょうか？

[伊藤先生のコメント]

日本国内での地産地消は難しそうです。

太陽光・風力・地熱などの自然エネルギーだけだと、必要な電力の上限50%くらいをまかなうのが精一杯。あとは火力・原子力発電などを併用しなければならないと考えています。

2050年には間に合いませんが、宇宙から電力を得る研究が進んでいます。

[参加者の意見]

- ・地熱があるにもかかわらずお金がないので難しいですね
- ・原発もなく、再生可能エネルギーだけで賄えたら理想ですが、コストがなかなかたいへんならろうと思います…
- ・効率的な洋上風力発電を可能にできればいいですが。。
- ・オーストラリアから電気を持ってくるとか？聞いたことがありますが、日本には電気を分けてもらうことは無理なのかな？
- ・自然災害がありすぎるのでメインは太陽光でしょうか
- ・海に囲まれているので、波力発電に期待したいです。塩分などでメンテナンス大変かと思いますが…可能かもしれませんが、地域によってできないところとかあるかもしれません。
- ・有り余るプラスチックを石油に戻して使いましょう！
- ・自分が使う分はEV車でまかなう。
- ・水素製造にもCO2が発生するのも堂々巡りで気になります…
- ・そもそものエネルギー消費量をやっぱり減らさないということですね
- ・エネルギー問題の話をするとき、需要を減らす方向の話題が出づらいのはなぜでしょうか？
- ・クラファンで地熱エネルギーへ世界中から投資してもらい、世界に向けて供給する
- ・2050年には人口が減るので、エネルギー消費量も減るといいですね・宇宙太陽光！

Q6 サステナブルな社会の構築と私たちの日常はどうつながっていますか？

[伊藤先生のコメント]

現在 80 億人が日常的にお肉を食べ、プラスチックを使い、暖房で部屋を温めています。今後、経済力の向上で同様のライフスタイルを送る人が地球規模で増加し、当然環境への負荷は高まっていくと考えられます。

[参加者の意見]

- ・「日常の積み重ねによる危機」の共感・共有が大事なのかなと思います。

サステナブル先生からのメッセージ



伊藤 武志 教授 - Takeshi Ito -

大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ (SSI) 教授
社会の新しい価値づくりの専門家

早稲田大学政経学部卒。ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院 MBA
城西国際大学大学院経営情報学研究科博士後期課程修了。博士(経営学)
銀行、経営支援会社代表を経て 2018 年大阪大学 SSI に参加
電力広域的運営推進機関運営委員会委員

この 200 年間、問題も多くありましたが、進んできたこともあります。

たとえば、SDGs や「誰一人取り残さない」といった取り決めがとうとう世界でおこなわれたこと。

誰一人見捨てない、この宣言には、SDGs という行動目標があることで、実行性を伴っている、そういう意味で、人類初の画期的なものだと感じています。

あるいは、科学技術は、インターネット・スマートフォン・オンライン通信・GAFA のサービスなど、かなり進展してきており、情報の透明性を向上できる可能性がかなり高まっていること。

これによって、「誰一人取り残さない」という大きな目的のために、みんなで協力できる可能性が高まっています。

「できない」ことから考えるのではなく、技術的にできることであれば、みんなで世の中を知り意識を変え協力すれば可能になるという前提で、おおきな夢も小さな夢も描いて、共有して、行動していく、といったことをしていただければと思います。

私自身、十数年前には今のような世の中がくることは予想しておらず、やはり人類はダメなのかなと思っていましたが、SWITCH やここに集うみなさんのような方々がたくさんいて、このようにお話ししたりすることができるようになるのなら、みんなが望むことは実現できるのではないかと感じるようになりました。

多くの仲間とともに、足下はしっかり踏みしめつつも、とはいえ、いつも千里の先、千里の道を考えながら、一步目を踏み出したいと思います。

SWITCH

協贊

